

勿凝学問 182

社会保障国民会議の議事録は宝の山
両論併記の是非に触れた雇用年金分科会の印象深いワンシーン

2008年10月5日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

社会保障国民会議はどうなるの？ などと真面目なことを考える必要はないわけで、雇用年金分科会はシミュレーションを出しているし、少子化分科会も1.5~2.4兆円が追加財源として必要との中間報告をまとめているのだから、やるべき仕事は終わっている。そして親会議は、中間報告で、これまでの社会保障改革の目的を持続可能性から「社会保障の機能強化」に転換しただけでほとんど任務完了というところ。あとは、医療・介護費用のシミュレーションを公にするだけ。公にするには、最終報告まで待たなくても良いわけで、あと一回医療介護分科会が開催されれば、シミュレーションの途中結果とバックデータが公開される。それで十分という気がしないでもない。

ところで以前から、社会保障国民会議のアウトカムは、シミュレーションと議事録の2つと言っていたわけで、先日、雇用年金分科会の議事録を用いて、「[年金問題 どんな政治家を選ぶのが問題だ](#)」〔『月刊現代』2008年11月号〕を書いてみた。そこに登場してもらった細野真宏さんは、さすがにカリスマ受験講師と呼ばれているだけあって、この文章は学生のウケがかなりよかった。たとえば先日、田町の立ち飲み屋で学生10人くらいと一緒に路上で生ビールを飲んでみると、「オレ、細野先生の本を読んで、ほんとに成績が上がったんすよ」などとの盛り上がりよう。ということで、今日はもうひとつ、雇用年金分科会の議事録を使った文章を書きとどめておこうかと思ったわけである。

さて、時は2008年6月4日、第5回雇用年金分科会会議。5月19日の第4回会議で、年金シミュレーションが報告され、流れに決着がついた次の会合であった。そこでまず、日本テレビ報道局記者の宮島香澄委員が話を切り出す。そして、宮島委員に反論する形で細野真宏氏が議論を展開するのであるが、このあたりは、僕が一連の会議の中でもかなり気に入っているシーンである。その様子は、議事録をそのまま読んでもらうのが良いと思うので、どうぞ。

○宮島委員 案の取りまとめ、どうもありがとうございます。

私、この会議に参加しておりまして、所得保障の広い話から年金の「制度」の話にな

ったときに、急に税方式か社会保険方式かという話題になったような気がしております。しかし、方式の議論をする前に、今の年金制度で何を指すのかを確認しながら、今の制度にどうい問題があるかをまず直視したいと思っております。そもそも移行がこれだけ大変だということはわかりながら、いろいろなところから税方式の提案が出てきましたのは、今の制度にいろいろな問題があって、それが簡単には解決しないという問題意識から出てきたんだと思うんです。

ですので、まず今ある問題点に関しまして、ちゃんと掘り下げた検証をして、それを国民に提示して、その問題を解決するためにどのような方策がいいのか国民と一緒に考えないと、年金の信頼は簡単には回復しないと思っております。私が取材などで一般の方や少し詳しい方々と話をしまして、挙げられた点を簡単に申し上げます。

1つ目、まず国民から見て制度が複雑でわかりにくいというのは、それだけで重大な欠点だと思います。年金制度の不信の引き金となった記録問題というのは、社会保険庁の執行のミスが大きいと思うんですけれども、仮に執行機関がしっかりやっていたとしても、制度が複雑だとミスが起こりやすいと思っております。また、国民が自分自身で、あるいは、政治の立場からちゃんとチェックができるということが必要で、複雑なほどそれができないということがあると思っております。

2つ目にいわゆる1号と2号の問題で、同じ収入でも基礎年金に対する負担が違うと思います。特に低所得の1号の被保険者にとっては、定額の保険料は負担が重いわけですが、免除を受けると結局は基礎年金が将来減ってしまうわけですね。また、2号の被保険者は、自分たちはどのくらい基礎年金に出しているのかもよくわかりません。基礎年金の共通認識や、明確な目的、自分はどのくらい出しているかなどをもっとはっきりさせることが必要だと思います。

3つ目に1号にとどまっている非正規雇用者の問題です。これは、座長からもお話がありましたけれども、非正規の雇用は企業の雇用コストが安いために、年金制度が非正規雇用を増やすインセンティブを与えていること。また、事業者ごと厚生年金を逃れようとする動きも実際にあります。なので、このあたりはもう少し書き加える提案を申し上げたいと思っております。

4つ目にいわゆる3号の問題です。それから、遺族年金で遺族基礎年金をもらうための国民年金と厚生年金で条件に差があると思っております。

5つ目に未納問題です。これは、座長もおっしゃったように、財政上の影響は少なくとも、国民みんなの助け合いという輪の中に一定程度の人が参加していないということは信頼に影響すると思っております。それから、将来的に目減りする基礎年金の水準がこれでいいのか。生活保護との関係の見直しも必要ですし、免除を増やすことで、未納対策をすることで起こってくる、免除を受けた人の将来の低年金をどう考えるかも検証が必要だと思います。

6つ目は保険料の徴収の問題です。先ほど山田委員からもお話がありましたけれど

も、保険料の徴収にすごく頑張っていらっしゃると思います。でも、国民から見るとこの集め方で本当にいいのかなと思っています。すごく頑張って1%上げているということだと思いますと、もっと徴収の仕方を考えたほうがいいのではないかと。また、社会保険庁の信頼そのものは、今、改革案がありますけれども、それで本当に国民の信頼は十分回復するのか、これだけでは十分には回復しないのではないかなと思っています。

7番目に、今回の取りまとめの中に年金制度における世代間の格差が十分書いていないのではないかと思います。2004年度にマクロスライドが導入されましたけれども、結果的には、将来実質的な基礎年金が目減りすることになりますし、若者にとっては、一生懸命払っているんだけれども、将来一体幾らもらえるんだという気持ちになるのが、今の年金制度だと思います。ですから、若い世代にとっては社会保険方式の良さである、きちんと払ったらしっかりもらえる、そういう給付と負担のちゃんとした感覚も若い世代にとっては感じにくい状態にあるのではないかと。

簡単に挙げましたけれども、こうした問題点がまず問題であるかどうか、問題だとすればどう解決するか、国民にわかるように一つ一つしっかりと直視して打ち出すことが、年金の信頼回復の第一歩ではないかなと思っています。例えば5ページあたりになりますでしょうか、財政方式の話に行く前に、現状こういう問題の指摘があるので、これに対してはこう考えるというような整理が必要だと思います。

○清家座長 ありがとうございます。

では、細野委員、どうぞ。

○細野委員 先ほどの宮島委員の一番最初の話と若干異なるところもあるんですけども、税方式、保険料方式と、かなり年金が複雑だという話があって、「いろいろな問題がどうにもならないから、新たな税方式論が出てくる」というように、今、お話があったと思うんです。ここの認識が私は少し異なっていて、前回の会議で示せたように、根本的に、なぜ税方式が出てきたのかといったら、単純に誤解から出てきている場合が非常に多い。つまり、「未納率がすごい、だから年金が破綻するんだ」という誤解がとにかく大きくて、そこから税方式という考え方がこれだけ強く出てきている。確かに年金は複雑なんですけれども、そういう面がある。つまり、両論併記もいいと思うんですけども、両論併記にすることでかえって複雑にしすぎているようなところもあって。もっと突き詰めていくと、今、宮島委員がおっしゃったように、「何が問題で、どう解決すればいいのか」というところを、まさに前回の会議で突き詰めていった結果、保険料方式というのは世の中で言われるほど、マクロ的に回るか回らないかという議論で言えば、きちっと回っていくし、そのところの大本では問題がないということを示せたわけですね。だからこそ、まず明確に、前回の試算も合わせて「年金破綻の誤解」の仕組みを強く提示すべきなのではないのかなと思います。

言うまでもなく、僕も細野氏同様、「根本的に、なぜ税方式が出てきたのかといたら、単純に誤解から出てきている場合が多い」と思っている。そうした考えは、5月19日に行われた第4回会議でシミュレーション結果が報告された会議のやりとりを読めば、自然に辿りつく自然な考え方だと思う。

第4回雇用年金分科会（5月19開催） [社会保障国民会議における検討に資するために行う公的年金制度に関する定量的なシミュレーションについて](#)

参考資料

「社会保障国民会議・年金分科会 [シミュレーション示し意見交換——税方式移行は消費税率の大幅引き上げが必要](#)」

ちなみに、宮島委員が指摘した「こうした問題点がまず問題であるかどうか」については、雇用年金分科会で議論していない。たとえば、公的年金には世代間格差はある。しかしその格差の存在が、なぜ問題であるとみなされ得のかなど、機会があれば、世の中の人いろいろと教えてもらえればと思っている。他にも、細野氏が触れた「両論併記」についても、最終報告書に向けて重要な論点であるような気がしないでもない。